

チャペルだより

チャペル

チャペルという言葉は辞書でひくと、「キリスト教の礼拝堂、学校や病院に設けられたものをいう」と書かれている。市街地など一般の教会に設けられているのを礼拝堂と呼ぶのに対して、学校や病院に設けられているものをチャペルと呼ぶ。こういうわけで礼拝堂とチャペルは呼び方の違いはあるものの、その役割は一緒である。

立教新座のチャペルでは、学校の生徒、教職員などすべての人のために祈りがささげられ、誰がいつ、様々な願いをもって祈りに訪れてもよいように開かれている。卒業後、このチャペルで結婚式を挙げる人もいます。チャペルはこのように、立教新座で生活するすべての人の原点的存在である。

一世紀の教会は、現在のような礼拝堂を持ってはいなかった。ユダヤの国は当時ローマ帝国の圧政下にあったし、同胞のユダヤ人による迫害も激しかったため、礼拝の場所は、カタコンベと呼ばれる地下埋葬所であった。地下室のため窓も何

もなく、真っ暗な中でろうそくを灯して礼拝を行っていた。

日本においてキリスト教が布教されたのは1549年、フランシスコ・ザビエルによってであるが、当初擁護されたキリスト教も、長崎26聖人の殉教、江戸時代の踏絵、宗門改めと激しい迫害が繰り返され、礼拝堂はおろか、キリスト教徒であることをひた隠しにしていなければならなかった。いわゆる隠れキリシタンである。

また、20世紀に至っても礼拝堂が資材供出命令を受けたり、空襲で消失したりと、2000年にわたるキリスト教の歴史の中で、礼拝堂やチャペルが存在し、安心して礼拝がささげられていた期間は、わたしたちが想像するよりもずっと短い。

礼拝堂・チャペルの構造は、時代によって差があるが、大きな流れでは、礼拝をしている者の一致が重視されたのが最初であった。しかし、偉大な神に対して人間はなんと小さく、罪深い者であるかという考えが強くなり、礼拝堂は長く大きくなり、一番奥（聖所）は礼拝をささげる人たちの会衆席から遠く離れることになった。立教新座のチャペルも、この考えの上に建てられている。

20世紀に入って、そもそもの最初の考えに立ち戻ろうという機運が高まり、21世紀

は再び、礼拝をささげる者に一致が重視されるようになってきた。私たちが学校という一つの共同体で共に生きる者として、チャペルの礼拝はささげられているのである。

私たちは、明日はおろか、数分先のことも知ることは出来ない。また自分だけで誤りなく、生きていくことも困難である。こうした私たちが、日々正しく生きることが出来るように、その日の使命を十分に果たすことができるようにするためには、私たちが心を合わせて祈ると共に、その祈りに基づいた生活をしていくことが重要である。そして祈りは、その後の行動を伴うことが大切である。

チャペルに足を運ぶたびに、このチャペルの背負っているキリスト教の歴史と、今の私たちの使命を、しっかり心に刻みつつ、共によいひと時を過ごしたいものである。
(チャプレン 鈴木伸明)



〈2009年度 入試日程〉

〈立教新座中学校〉

	一般 第1回	帰国児童	一般 第2回
募集定員	男子約100名	男子若干名	男子約40名
出願	郵送	1月5日(月)~1月17日(土) 消印有効	
	窓口	なし	2月3日(火)
入学試験	1月25日(日)		2月4日(水)
合格発表	1月26日(月) 掲示・郵送		2月5日(木) 掲示のみ
入学手続	1月28日(水)		2月5日(木)
	2月3日(火)		

〈立教新座高等学校〉

募集定員	男子 約80名
出願	1月17日(土)~24日(土) 消印有効(郵送のみ)
入学試験	2月2日(月)
合格発表	2月3日(火) 掲示・郵送
入学手続	2月6日(金)

〈2009年度 入試要項(願書)の販売について〉

	立教新座中学校	立教新座高等学校
販売	立教新座中学校・高等学校正門右手(門衛所)にて販売しております。 販売時間：8:00~20:00(土、日、祝日も販売) 1部 1,000円	
郵送申込	入試要項：1部 1,000円 送料：1部 390円(切手) 2部 580円(〃) 3部 580円(〃)	入試要項：1部 1,000円 送料：1部 240円(切手) 2部 390円(〃) 3部 580円(〃)
	封筒に「中学校入試要項請求」と明記し、現金書留で下記に請求してください。	封筒に「高校入試要項請求」と明記し、現金書留で下記に請求してください。
	〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課 TEL(直通) 048-471-6648	
外国在住の方	海外への送付方法につきましては、教務・入試広報課までお問い合わせ下さい。	

〈学校説明会日程〉

11月9日(日)

〈中学校〉 ①9:30~ ②11:00
〈高校〉 13:30~

*参加申し込み不要。上履き不要。

*本校および周辺に駐車場はありませんので、お車での来校はお断りします。

編集後記

あっという間に夏が過ぎ、S.P.F.も終わると次はクリスマスでしょうか。クリスマスの時期は「イルミネーション点灯式」「キャロリング」など多くの行事がおこなわれます。雰囲気ある新座キャンパスでのクリスマス行事に皆様も是非参加してみてください。

Campus News Rikkyo Niiza 第43号

編集：立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課
発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)



Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza-hs.rikkyo.ac.jp/>

〈No.43〉

特集 — 国際交流 —



立教新座では国際交流を目的とした多くのプログラムがあります。国際交流は、授業のなかで養った英語力・英会話能力を試すということだけでなく、日本以外の方々との生活をとおして、自分たちとは異なった習慣やものの考え方を肌で感じることで、そして自分たちとの共通点を知ることも大きな目的です。その経験から、自分自身を見つめ直し、より大きな視野を持って物事を捉え、考え、そして行動できるようになってほしいのです。

立教新座の海外研修の歴史は、1964年に教育関連企業の企画した東南アジア研修旅行に学校として参加したことから始まります。この後、立教高校（当時）独自のプログラムとして、東南アジアやアメリカへ研修が数回実施され、1969年からは、現在まで続いている「英国・欧州研修旅行」（現在は、英国サマースクール）が始まりました。その後、1992年に、オーストラリアの高校への短期留学を目的とした「オーストラリア短期高校留学」が始まり、高校生はそれぞれ自分の目的にあわせ海外研修を行うことができるようになりました。2000年度の中学校開設にともない、中学生対象の「アメリカサマーキャンプ」が始まり、現在に至っています。

このような海外研修の他に、1年間の学校派遣留学生制度や海外からの短期留学生の受け入れなど、さまざまな形で多くの生徒が国際交流を経験できるよう努めています。

プログラム（対象学年等）	主な内容と特徴
アメリカサマーキャンプ 参加生徒：中学生の希望者 募集人数：約17名	立教池袋中学校の生徒と合同で実施。サンディエゴでのサマーキャンプに参加し、現地の人たちと様々なプログラムを通して交流を図る この他、サンディエゴ市内観光・メジャーリーグ観戦など
英国サマースクール 参加生徒：高校生の希望者 募集人数：20名	現地のご家庭にホームステイしながら、語学学校に通い、語学研修を中心としたプログラムを実施 この他、ロンドン市内自主研修など
オーストラリア短期留学 参加生徒：高校生の希望者 募集人数：20名	現地のご家庭のホームステイをしながら、アクアイナス・カレッジ（現地校）に通い、学校で行われる授業や、交流プログラムに参加
ブライトン・グラマースクール留学生派遣制度 高校1年生より、選考試験により1名派遣	オーストラリアのブライトン校に、学校派遣の留学生として1年間通学。 現地で取得した単位の認定を受け、進級復学が可能。
短期留学生の受け入れ	海外からの短期留学生のホームステイ先を在校生のご家族より募集。留学生の留学生生活をサポートしていただく。留学生が本校の生徒と一緒に授業を受けたり、交流プログラムを行うことで国際交流を図る

特集 国際交流 ～経験、体験して～

【アメリカサマーキャンプ】 7月31日～8月12日

アメリカに行って

僕はこのサマーキャンプでもものすごくすばらしい経験と感動を味わいました。最初は現地の人とうまくなじめませんでした。僕らはなるべくアメリカでは積極的に英語を話そうと心がけていました。

そしてたくさん話しかけた結果、簡単な会話でいろいろな人と友達になれました。単語がわからない時は、彼らは気を利かせてタイピングをしてくれました。

Japan Dayでは、書道や折り紙などの日本の伝統的なもので、アメリカ人をもてなし、最後の夜はみんなでダンスパー

ティーもして、本当にたくさんのキャンパーたちと仲良くなりました。しかし、仲良くなればなるほど、別れも辛く、みんなと別れることにととても抵抗がありました。僕は班の友達と一緒に写真を撮ったりして思い出を残しました。みんなとはいまでもe-mailをしています。

別れなど辛いこともありましたが、それ以上に楽しいことをたくさん経験出来て良かったです。そして夢も出来ました。僕は今回のサマーキャンプで全くと言っていい程英語を上手に喋ることが出来ませんでした。もっと一生懸命英語を勉強して、将来再びアメリカへ行き、キャン

プで一緒だった友達と再会したいです。
中学 3年C組 竹内健人



【英国サマースクール】 8月1日～8月18日

海外研修に行って得たこと

イギリスから日本に帰ってきた当初、いろんな人に「どうだった?」と聞かれた。それに答えるとき、自分は決まって「思ったより楽しかったよ」と言って思い出を話し始める。海外に行ったことがなかったわけではないのだが、今回ほど長く行くこともイギリスの家庭にホームステイすることもそれまでではなく、出発前はかなり不安で緊張していた。しかし、実際に行ってみるとホームステイ先は実

に居心地が良く、現地の学校はわかりやすく楽しい。そのため、出発前の不安と緊張が嘘だったかのように海外研修はあっという間に終わった。そのような意味で「思ったより楽しかったのだが、今考えると、不安に思っても参加して、それをやり遂げることによって自分に自信が付いたのではないかと思う。

また、いろいろと面白い経験もあった。最も印象的であったのはホストマザーから帰ってきた洗濯物の中に前の日本人生徒（もちろん日本に帰国済み）の物が混

ざっていたことだ。これにはマイペースを自負する自分も調子が狂ってしまったが、イギリス人の気風を知る良い経験であった。他にも、現地でゲームを買ってみたり、お別れパーティーに来た市長に日本のマンガ（英語版）をプレゼントしてみたり、普通の海外旅行では経験できないようなことをした。ホームステイに行ったことによる自分の変化とかけがえない経験こそ自分が得た最大の物であり、一生の財産だと思っている。

高校 2年6組 富岡 秀隆

【オーストラリア短期留学】 7月25日～8月17日

今回のオーストラリア海外研修で、言葉も考え方も全く違う人と過ごした約三週間。長いようでとても短く、そしてなによりも自分の考え方、価値観を変えてくれたこの時間は、僕の人生の中で大切な宝物です。勢いで団長になってしまった僕は、むこうの学校(Aquinas College)に初めて行った日、全校生徒の前でスピーチをすることに!!しかも英語で!!です。むこうのノリもわからず、どうすればウケるのかな・・・とすごく悩みました。引率してくださった古平先生に助けをもらい、本番のスピーチでは上手く湧かせることができました。そこからは名前を覚えきれないほど次から次へと色々な生徒が話しかけてきてくれたんです。あちらの学校に行って一番強く感じたことは、「(いい意味で)遠慮がない」ということ。日本人同士が初対面したときというのは、

やはり心の壁、みたいなものがあり、少し抵抗感を感じる場面が多いと思います。段階を踏んで親しくなっていくという点で、そういう日本人のコミュニケーションのとり方も素晴らしいと思いますが、僕個人としては、もっと最初から積極的に会話を交わしてそれを楽しんだほうがお互いに楽しめない!!と聞いていたんです。こちらが日本人だからといって遠ざけることなく積極的に話しかけてきてくれた生徒の皆さんには心から感謝!!そもそも今回の留学に参加したのは、新しい環境で、新しい自分を見つけないかという考えがあつたことでした。その意味で、今回参加したのは自分にとっては大成功でした。もっと積極的にならないと人生損だなと日に日に感じ、日本に戻ってきた今は、以前の自分にはない新しい一面を持てるなど実感しています。いくら

ここに書いても上手く伝わらないかもしれないけれど・・・やっぱり世界は広いです。ちょっと外に出てみれば、そこには自分と同じ人間なのに、まるで違う価値観を持った人が生活しています。自分がいかにちっぽけな存在なのか痛感し、それと同時に仲間の大切さというのを改めて感じる事ができます。どこの先生が言っていた「人という字はっ!!人と人がっ!!支えあってできているっ!!」というのはあながち間違いではないなど。というわけで、これを読んでくださっている生徒のみなさん!!ちょっとでも興味があるのなら、ぜひ外の世界に足を踏み出してみてください。必ず新しい自分が見つかりますから。

高校 2年5組 須貝 崇史

第17回 オーストラリア短期留学ホームステイプログラム

以下は私が事前ミーティングで話した留学心得である。興味のある生徒諸君は是非とも来年の夏休みに参加してほしい。

1 異文化を楽しむ気持ち

言葉も違う。生活習慣も違う。考え方も違う。違うことを探すとさりが無い。大事なことは「日本がいい」「オーストラリアは良くない」などと、すぐに価値判断をせず、「なぜここでは、こうするんだろう?」というように理由を考えてみる。その文化には、その文化の存在理由がある。

2 自分を売り込む気持ち

オーストラリアの人達は皆のことを知りたいし、皆を通して日本文化を知りたいと思っている。自分をアピールすることは自分を見つめ直す絶好の機会でもある。「自分って何なのか」「日本って何なのか」という問いに向きあうと、新たな自分、新たな日本を発見できる。

3 感謝の気持ち

このプログラムは多くの人に支えられ成り立っている。立教生を受け入れてくださるアクアナス校の先生や生徒、皆を受け入れるホストファミリー、旅行者の方々。そして誰よりも、皆を送り出してくれた保護者の方々。感謝の気持ちがあれば決して遊び半分の気持ちでは参加できない。

引率教員 英語科 古平 領二

キャンパストピックス

榛名ボランティアキャンプ

ボランティアキャンプを終えて

高校 2年2組 坂出 義之
僕はボランティアキャンプのために三泊四日の間、群馬県の「新生会」に行きました。このキャンプに参加した理由は、正直に言うと時間を持て余していたからで、現地についた時はあまりやる気があるという状態ではありませんでした。

一日目はオリエンテーションでした。まだ高齢者の方との接触もなかったので修学旅行のような気楽な気分でした。

二日目の午前には高齢者の方とお話をして午後はずっと窓掃除と食事の配膳をしました。お話をしている時に一人のおばあちゃんが僕の名前を覚えてくれて「坂出さん」と呼んでくれたのが凄く嬉しかったです。かなり緊張していたのですが、おばあちゃんが気さくに話しかけてくれたので、すぐに打ち解けることができました。このおばあちゃんは最後に帰る時にもお話をすることがあり、「また来なさいよ、息子なんだから」と言ってくれてとても嬉しかったです。このおばあ

ちゃんのおかげでボランティアキャンプに来て良かったと思えました。

三日目の仕事は、午前各部屋を訪れてゴミ掃除をして、午後はお菓子パーティーの手伝いを主にしました。一緒に掃除に付き添ってくれた職員の方はテキパキと仕事をこなしていましたが、すべての入居者の好みや状態を把握して長時間労働するのは本当に大変そうでもとても真似できないと思いました。パーティーの時に一人のおじいちゃんの昔話を聞かせてもらいました。その方は関東大震災や戦争に行きシベリアに抑留された時の話をしてくれました。歴史の勉強で習ったことですが、実際に体験した人の口から聞いたのでとても興味深く面白い時間を過ごすことができました。

最初はあまり乗り気でないなかで参加したのですが、たくさん素晴らしい出会いがあり、ボランティアキャンプに参加して本当に良かったと思います。

ハケ岳環境ボランティアキャンプ

環境ボランティアを体験して

高校 3年5組 鈴木 一史
夏休み、僕はハケ岳で行われた環境ボランティアキャンプに参加した。目的は名前の通り、現在悪化が懸念されている地球環境を守るための活動をするというのが大筋だが、今のこの説明では抽象的すぎるだろう。そこで、ここからは僕たちがこのキャンプで行ったことや学んだことを書こうと思う。

初日、8月13日には朝8時に出発、バスの中で3日間、共に同じ生活班として行動するメンバー達と対面した。班の半数がとても元気のある小学生で、そのテンションの高さに本当についていけるのかという不安も最初のうちはあったが、段々ととけ込んでいくことができ、現地に到着した時には、初対面だった朝が嘘のように、とても仲良くなることができていた。

さて、初日はまず自然について知る事から始めようという事で、現地のレンジャーの方について森の中を歩きながら、自然に触れることに重点を置いた。本格的なプログラムは2日目からということで、自然に親しんだ初日は、残った時間を生活班のメンバーとして親しくなる時間に使った。

2日目、この日は活動班という新たな班に分かれ、実際に

環境を守ることに貢献するための活動をした。僕が具体的にに行ったのは、森の中を通る遊歩道にウッドチップを蒔き、その蒔いたチップが雨水によって流れないようにする為のフェンスを、木の枝などを使い作るという作業だ。どちらも地味な作業には見えるが、例えば、ウッドチップを蒔くことによって地表へのダメージを緩和することができるし、またフェンスにしても、自然のものを使って作っているから、とても自然に優しい。僕たちの活動班が行ったこの作業が、環境のためになっている事を願いたい。

3日目、最終日は自然の中で活動するのも最後ということで、自由に活動する時間が与えられたため、僕はゆっくりと、自分のペースで今まであまり触れていなかった自然の良さを堪能することができた。

東京に着き、仲良くなった生活班の仲間ともお別れ。また、このメンバーで、環境を守る行事に参加できたらいいと思える班だった。

今回のキャンプを通して、集団生活の楽しさ、難しさ、また環境に良いことをすることの重要性を再認識することができた。またこのような機会があったら、積極的に参加したいと思う。

運動会

9月27日(土)に中学校運動会が開催されました。1年生は体育の授業で練習した大縄跳び、2年生、3年生は綱取り、騎馬戦とクラスで一致団結して頑張りました。

3学年通してのクラス対抗で得点を競うため、学年を超えて応援をする姿が多く見られました。今年は雨で一度順延になってしまいましたが、多くの保護者が応援に駆け付け、大いに盛り上がった一日になりました。



行事予定

行事予定～中学校～

11/1(土)	秋季休業(～11/5)
9(日)	第2回学校説明会
13(木)	3年収穫感謝礼拝
14(金祝)	1年社会科校外学習
19(水)	1年収穫感謝礼拝
20(木)	2年収穫感謝礼拝
22(土)	音楽祭
12/1(月)	イルミネーション点灯式
5(金)	期末試験(～12/8)
9(火)	1年美術特別授業
10(水)	スポーツ大会
11(木)	3年クリスマス礼拝
12(金)	2年クリスマス礼拝
13(土)	1年クリスマス礼拝
16(火)	2年芸術鑑賞会
17(水)	1年芸術鑑賞会
19(金)	英語スピーチコンテスト
20(土)	2学期終業礼拝・保護者学級会
21(日)	冬期休業(～1/7)
25(木)	スキー学校(～12/29)
1/8(木)	3学期始業式・宿題試験・英語実力試験
9(金)	1年・2年学力テスト
15(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
21(水)	1年聖パウロ回心日礼拝
22(木)	3年聖パウロ回心日礼拝
25(日)	一般入試第1回・帰国児童入試
26(月)	一般入試第1回・帰国児童入試合格発表

行事予定～高校～

11/1(土)	秋季休業(～11/5)
6(木)	3年卒論提出日
8(土)	3年英語標準学力試験
9(日)	第2回学校説明会
13(木)	3年収穫感謝礼拝・学生会会長選挙演説
17(月)	3年英語標準学力試験
20(木)	1年収穫感謝礼拝・学生会会長選挙
25(火)	3年学年末試験(～11/29)
27(木)	2年収穫感謝礼拝
29(土)	卒論成績発表・1年進学クラス説明会
12/1(月)	イルミネーション点灯式
5(金)	1年・2年期末試験(～12/10)
15(月)	1年クリスマス礼拝
16(火)	2年クリスマス礼拝
20(土)	2学期終業式・3年クリスマス礼拝
25(木)	スキー学校(～12/29)
1/8(木)	3学期始業式・宿題試験
15(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
22(木)	3年聖パウロ回心日礼拝
29(木)	1年聖パウロ回心日礼拝

キャンパストピックス

彩夏到来08埼玉総体

全国高校総合体育大会（インターハイ）が、7月28日～8月20日の間、開催されました。埼玉県がメイン会場になるのは初めてのことで、「限界を超え 飛びたつ君よ 永遠の風になれ」をスローガンに約3万3000人が参加する大会になりました。地元埼玉の開催ということで、本校でも運営に関わったり、選手として出場したりと盛り上がる大会になりました。

2008年度埼玉総体一人一役活動に参加して

高校 2年6組 坪井 聡志

私達インターハイ実行委員会の最初の仕事は「無事カエル」という選手に配布するマスコットの製作でした。私達実行委員は慣れない針仕事に苦戦しながらも、先生方の助けを借りて予定を越える数のマスコットを製作する事ができました。また、大会会場では受付として案内や大会パンフレットの販売、清掃活動を行いました。

初日から会場は多くの選手や来場者の方々で賑わっていて、限定のTシャツやタオルがよく売れているようでした。受付・案内が私たちの大きな役割だったのですが、なんの打ち合わせもないまま初めて来る場所の案内など出来るはずもなく、しばらくは戸惑っていました。しかし、そのうち、徐々に要領がつかめてきて、しっかりと案内出来るようになりました。その他にも来場される方々に大きな声で挨拶するなど、心得ておくことがいくつもありました。その様なことは、学ぶべきではありませんが、なかなか学ぶ機会がないのも実情です。活動をしている時は大変だとか、面倒くさいとか、つつい思ってしまうがちでしたが、大会運営の補助員として、それを学べた自分達は、とても素晴らしい経験が出来たと今では思っています。

インターハイに出場して

高校 3年3組 高柳 裕気

今年、フェンシング部はインターハイに17年ぶりの団体出場を果たした。地元開催ということもあり、試合当日にはたくさんのOB、保護者、先生方が応援に駆けつけてくれた。立教新座の初戦の相手は富山県立富山西高校だった。

フェンシングの団体戦は、基本的に1チーム3人で行う。相手チームの3人と総当たり戦、3×3の合計9回試合を行い先に5勝した方が勝ちとなる。試合中、一番印象に残ったのは、僕の3戦目（チームにとっては7戦目）だ。チームスコア2勝4敗で巡ってきたその試合は、あと一回負けると立教の負けが確定する試合だった。しかし、不思議と緊張はしなかった。むしろ、この試合で自分のインターハイでの試合は最後になるかもしれないから自分にできる最高の試合をしようと思ひ、いつも以上に動き、一本突けばいつも以上に声をあげて喜んだ。

結果的にその試合には勝った。そのあとチームは3勝5敗で負けちゃったが、インターハイ出場によって得たものは大きいと思う。フェンシングが今まで以上に好きになったし、何より試合で一本突いた時のあの高揚感は一生涯忘れられないと思う。



夏の大会《高校野球部》

今夏、立教新座高校野球部は、久しぶりの熱気につつまれました。

我が野球部が「夏の甲子園」、全国高等学校野球選手権大会南埼玉地区予選で、1985年以来の決勝戦進出を果たし、甲子園出場をかけて、浦和学院との一戦に臨んだのです。

7月26日に行われた決勝戦当日。立教の大応援団が陣取る1塁側スタンドは、試合開始前から超満員。野球部関係者や在校生だけでなく、多くの卒業生が母校の甲子園出場の瞬間を見に球場にやってきました。スタンドでは旧友との久しぶりの再会を喜ぶ声も聞かれ、さながら同窓会のような様子でした。

試合は、初回、エース岡部賢也君が調子を出す前に3点を奪われ、本校が必死に追いかける展開。何度か同点、逆転のチャンスをつかみかけましたが、結局、藤卓哉君のホームランによる1得点に終わり1-4で惜敗。地力に勝る浦和学院に一步及びませんでした。

試合には負けたものの、選手の一生懸命なプレーに、スタンドからは惜しめない拍手が送られ、「来年こそ、頼むぞー」と大きな声かけられました。

野球部の選手はもちろん、在校生、学校関係者、そして多くの卒業生にとって「熱い夏」となりました。

私たち立教新座高校野球部は、2009年南埼玉県大会の決勝戦で2連覇中の浦和学院高校に敗れ、夢の舞台甲子園でプレーすることなく、私にとっての2年間半の高校野球は幕を閉じた。

今思うとこの2年間は一瞬のようなできごとであったが、思い返してみれば、色々なことを経験した。

入学当初は、ボールも触れず、厳しい練習ばかりだった。その後、新チームになり少しずつ出番が増え、1年の秋の県大会では、先発したのに負けてしまい、先輩達の残り2回の内の1回の甲子園出場権を消してしまった。その後監督が代わり夏の大会に臨んだが準々決勝で敗れてしまった。この試合も自分の力不足により負けたので、今まで以上にトレーニングをしたが、秋・春の大会とまた負けてしまった。なので最後の夏の大会に全てを注いだ。3回戦では第1シードの市立川越高校を倒し、その後も次々とシード校を倒し決勝戦まで来たが、4-1で浦和学院に敗れてしまった。

今ふりかえるとこの2年半、野球を通じて、甲子園に出場するよりも大事なものを手に入れることができた。それは、チームメイトの大切さだ。3年生の15人、2年半ありがとう。そしてこれからもよろしく。

高校 3年2組 岡部 賢也



【留学生の受け入れ】 Brighton Grammar Schoolより15名 9月20日～28日 Aquinas校より4名 9月20日～12月2日

9月21日(日)オーストラリアのブライトン・グラマースクールより15名の留学生が本校にやってきました。ウェルカムパーティーで、留学生から、そしてホストファミリーになる家族から簡単に自己紹介があり、ホームステイが始まりました。学校では剣道や書道、そろばんなど初めて触れる日本ならではの授業を受け、放課後は自分の興味のあるクラブに参加し、多くの本校生徒と交流をしました。また、休日はホストファミリーと一緒に

過ごし、多くの日本文化に触れたようです。27日(土)のさよならパーティーでは留学生から日本語でホストファミリーへの感謝や日本の感想などを述べられ、1週間の短い留学が終わりました。

また、同時期にアクアイナス校より4名の留学生を受け入れています。この4名は12月2日まで少し長い期間、ホームステイをしながら主に高校2年生のクラスに入り授業を受けています。



〈ホストファミリーの感想〉

ホストファミリーになって

僕はブライトン・グラマースクールからやってきた生徒の一人、ジェームスを家に迎え入れた。ホストファミリーになるにあたって、僕は「出来るだけ沢山の話をすること」を一つの目標としていた。メチャクチャな文法で話しかけても、ジェームスは理解してしっかり応えてくれた。彼は話が乗ってくると大変早口で話すので、聞き取るのが大変だったが、会話はとても楽しかった。

僕と彼は互いの母国の文化を教え合った。会話をすることで自分はあまりにオーストラリアを知らないことに気付いた。外国人と交流する際、母国のことだけでなく、相手国の事情を知っておく必要がある事を痛感した。

高校 1年5組 保井 勇人

私は当初はホストファミリーなんてめんどろなことはしたくないと思っていた。毎日登下校を共にしたり、彼らの旅行の集合場所に定刻どおり連れていったり、めんどろなことが目白押しだからだ。しかし、その考えは留学生と生活していくうちに徐々に変わっていったのだ。休日彼と外出すると彼の趣味の話で盛り上がり、家に帰れば彼とゲームをして楽しい時間を過ごしたりと充実した時間を過ごすことが出来たからだ。

またオーストラリアの話聞き、話からオーストラリアとの文化の違いを実感することもできた。この貴重な体験が今後の人生の糧になってくれればと思う。

中学 2年E組 才原 佑也

ホストファミリーの体験

「ウルルン」みたいな経験になるかと思ったが、わりと淡々と一週間が過ぎていった。おとなしい子だったし、昼間は学校にいるため、そんなに長い時間面倒を見るわけではない。なんでもやってあげよう、と気負ってしまうと双方ストレスになると思ったので、普段のペースで接し、相手もリラックスしてくれたと思う。驚いたのは想像以上に日本のものが世界に溢れているのを実感したこと。アニメやゲーム、IT関連などの日本製品についても私たちよりもはるかによく知っている。またインターネットは本当にグローバルなものだと再認識した。ただしパソコンにむかっている限り、そこは日本ではなく自室と同じ。海外に居る、という意味合いが薄れるとも思った。彼が近所の英語を勉強しているオジサンと会話して通じたのでオジサン大喜びだった。周りの人もオジサンを尊敬した。ラッシュアワーが珍しいらしく沢山写真を撮って周りの人たちに訝られた。掛け値なしの日本、の体験だろう。もちろん彼のほうには私たちの想像を超える体験と感想があるのだけれど。

田中 研一 (中学1年B組 田中直也 保護者)

〈留学生より〉

During our stay at Rikkyo we were able to experience classes such as *Judo*, *Soroban*, *Kendo*, Calligraphy and English, amongst other. Because we don't have classes like these in Australia, we found them very interesting. The *Soroban* and *Kendo* classes were especially interesting because we didn't know anything about them before coming to Japan. All the teachers were very helpful during our stay at Rikkyo and we would like to thank them very much for having us in their classes. The Rikkyo students were very helpful as well. Thank you again for having us in your school. さようなら.

David Raphael

